



このひと

社会福祉学科 1985年(昭和60年)卒
下尾直子さん(新35)



どん底の私に力をくれたのは 女子大の同級生や先生方の応援でした

アナウンサーから大学教師へ転身。そこには挑戦の歴史がありました。下尾直子さんをご紹介します。

ニッポン放送に入社し昼の帯番組のアシスタントになり、放送作家をしている主人と出会いました。3年で退社し、

新たに開局したFM79.5で「内村直子のふわわパーティー」という番組のパーソナリティーを務めました。結婚と同時に降板し、主婦業と両立できるペースの仕事に切り替えました。

◎その後、お嬢さんが生まれましたね？

生後7か月の時に障害を診断され、療育センターへ通うことになりました。家でも1日に4回リハビリをやっていました。でもリハビリをやりながら家事・育児をしている

と、精神的にも肉体的にも、どんどん追い込まれていくんですね。療育センターでも、待合室では皆が互いを見てはいけないような雰囲気、私は自分を「どん底だ」と考えるようになっていました。



そんな生活を続けていた時、

ふと「ここがどん底なら、強く蹴れば浮かび上がれるかもしれない」と閃きました。同時に一番々瀬藤子先生が「社会福祉学科で学んだことは、専門家にならなくてもあなたの居るところで活かせる」とおっしゃっていたことを思い

<プロフィール>

- 1985年 大学卒業、ニッポン放送のアナウンサーとして勤務
- 1988年 フリーとして独立 FM795で番組パーソナリティー
- 1993年 子育て開始と同時に専業主婦
- 2004年 横浜国立大学大学院修士課程(障害児教育専攻)
- 2006年 日本女子大学大学院博士課程後期(社会福祉学)
- 2010年 同大学院満期退学 日本女子大学非常勤講師
- 2011年～現在 洗足子ども短期大学に勤務
- 2016年 博士号取得(日本女子大学大学院社会福祉学)

出し、自分に何が出来るかを考えました。そして療育センターで思いきって他のお母さんたちに「友達にならない？」と声を掛けました。すると、皆、眼をパァーッと輝かせて「うん！」と。同じ気持ちだったのです。

◎サークルを立ち上げられたそうですね？

田端光美先生の後押しもあって立ち上げることが出来ました。参加者を募集したら、なんと一週間で40名以上の応募がありました。親が話をしている間、子どもを見ていて

くれたのは、女子大の同級生たちでした。本当にありがたかったです。その後、色々なことを企画しましたが、その流れでミュージカル団体も立ち上げました。私が一人一人の障害に合わせて脚本を書いて10年続けました。

◎そんな多忙な生活の中で大学院を目指されたのは？

WHOが2000年に発行した「ICF」(国際生活機能分類)の冊子にし、そこに書かれていたことと自分の子育てが結びつき、勉強したいと思いました。健常者障害者だけでなく、すべての人が暮らしやすい世の中を考へる「社会モデル」の研究がテーマです。現在は短大で保育者のための社会福祉と障害児保育を教えています。

◎若い後輩や読者に伝えたいことは？

「人生は何とかなる」「一人を抱え込まない」ってことでしょ。か。「転んでもただでは起きない」のが日本女子大の伝統だと思います。(笑)